

# 平成27年度 第11回（震災後第63回） 陸前高田市保健医療福祉未来図会議 議事録

テーマ：「他人（ひと）ごと意識の解消～今ある差別・虐待とこれからの配慮～」

日時：平成28年2月19日（金）13：30～15：30

場所：陸前高田市役所 4号棟第6会議室

参加52名 28団体

資料：下記にアップ

<http://www.koshu-eisei.net/saigai/rikuzentakatakaigi.html>

## 1. 挨拶

菅野民生部長

本日は、全ての人に対し、差別なく、お互いに配慮し合う、まさに誰もが住みやすいまちになるよう、他人ごと意識の解消に進むような知恵をいただきたい。

## 2. 報告・協議内容

### (1) 未来図会議のめざすところ

- ・陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也

### (2) 障害者差別解消法の概要について

- ・陸前高田市 社会福祉課 障がい福祉係長 佐々木賢也

### (3) グループディスカッション

- ・日常にある「不当な差別」と「合理的配慮」について考える

※災害対応ゲームにおける演習「クロスロード」の切り口で・・・

### (2) 障害者差別解消法の概要について

(陸前高田市 社会福祉課 佐々木障がい福祉係長)

障害者差別解消法は平成28年4月から施行される法律で、障がいがあってもなくても普通に暮らせるよう、差別をなくし配慮を行うという内容になっており、国や基礎自治体・事業所などは不当な差別をしてはならないと明記されている。市への規定は、市が行うべきこと、行わなければならないこと、行うよう努力することなどの6つが書かれている。

①施策を策定し実施することについては、本日のような説明会を随時行っていきたい。④市の職員が障がいのある方に対する対応の要領をつくるということだが、当市はノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくりの理念を踏まえ、障がいのある人もない人も満足していただけるよう努めていきたい。⑤障がいのある方の差別などに関する相談に応じる体制づくりについては、市が窓口となることを考えている。⑥差別についての地域協議会を組織することについて、早目に設置できるよう進めている。②と③は、今回の未来図会議に

つながるが、障がいのある方が健康に生活できるように配慮しなさいと記載されている。

**地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：**

「クロスロード」は、阪神淡路大震災での経験をもとに文部科学省が作成した災害対応ゲーム演習である。誰かの意見を批判するのではなく「そういう意見もある」ということを知るためのプロセスだと思ってほしい。皆さんの手元にカードがある。今から出す問題に対して「イエスは青」「ノーは赤」のカードを出してもらい、お互いに選んだ理由を発表してグループで話し合うという流れである。

**(3) グループディスカッション（災害対応ゲームにおける演習「クロスロード」）  
日常にある「不当な差別」と「合理的配慮について」考える**

**地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：**

不当な差別的な取り扱いについて①。お店の店主のみで経営している飲食店があり、そこに外国人が来た。外国人という理由で「入らないでください」と断ったようである。不当であると思う人はイエスのカードを出してほしい。

[グループディスカッション]

**参加者：**

外国人といえども商売をしているのであれば対応すべきであり、断るのは不当だと思う。

**参加者：**

人それぞれ外国人に対するイメージが違う。嫌な経験があったなど、その人の経験から反射的に出ることもあるということから、ノーにした方がいた。

**地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：**

不当な差別的な取り扱いについて②。店主のみで経営している飲食店に視覚障がいの方が盲導犬を連れてきた。この店主は犬が怖いという理由で断った。これは不当か。

[グループディスカッション]

**参加者：**

私がノーと出したのは、外国人や視覚障がい者だからではなく、その店主は「犬が怖い」ということで断ったのだと思ったからである。

**参加者：**

イエス。怖いという店主の思いはあるが、盲導犬は訓練されており、攻撃したり吠えるこ

とはないと考えると、受け入れるべきと思う。

**地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：**

不当な差別的な取り扱いについて③。10人で構成する委員会の委員が全部男性だった。インスピレーションで答えてほしい。

[グループディスカッション]

**参加者：**

イエス。片方の性だけというのは異常だと思う。「どういう選ばれ方をした委員会なのか」ということもあるが、異常という意味でイエスにした。

**地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：**

不当な差別的な取り扱いについて④。障がいがあるため電車の運賃が割り引きになった。これは不当な取り扱いになるかどうか。

[グループディスカッション]

**地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：**

終了とする。ここで、あえて答えづらい担当課に聞く。皆さん、安心して話してほしい。

**担当課**

障がいがあるなしにかかわらず、移動ができる対価として割り引きは要らないという見方が1つ。あとは障がいがある方は外になかなか出られないということもあるため、割り引きがあったほうが外出の機会が増えるのではないかという話が出た。

**参加者：**

イエス。私たちより収入の低い方が多いと思うため、このくらいの割り引きはいいと思う。

**地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：**

次は、合理的配慮について①。あなたは市の職員である。市役所に四肢の障がいを持つ方から「どうしても岩手山に登りたい。朝日を見たいがどうにかならないか」という要望があった。これには配慮が必要なのか。どうしたらいいのか。イエス・ノーが出しにくいので、お互いの意見に対して話し合っていたきたい。

[グループディスカッション]

**参加者：**

その望みを達せられるかどうかは、方法が見つかればできるだろうし、方法がなければできないが、本人の人権を尊重して配慮はしたほうがいい。

**参加者：**

はっきり「だめ」と言ったほうがいい。そのかわり、「あしたの朝、箱根山に連れていきましょう」ということを言えばいいのではないかと思う。

**地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：**

ちゃんと連れていくのか。

**参加者：**

それが配慮である。

**地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：**

合理的配慮について②。あなたは、お茶っこ飲み会の事務局員である。ある高齢の方が、「お茶っこ飲み会に参加したいが、いつも同じ人が延々としゃべっているので、おもしろくない。あの人がいなければ私は行く」と言った。皆さんも経験があるのではないか。

[グループディスカッション]

**参加者：**

例えばグループを2つにして、どちらの方も参加できる形にしてはどうかという意見も出た。また、参加しなくてもいいのではないかという意見も出た。

**参加団体**

よくある話だが、どちらにも来てもらうため、ずっと話をしている方に何かしらの大事な役割をお願いして、聞き役に徹してもらうことで配慮するという名案が出た。

**地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：**

合理的配慮について③。あなたは地域の寄り合いの事務局。引っ込み思案の20代の若者が「地域の寄り合いに参加しても意見を言えないし、いつも声の大きい人の意思ばかり尊重されるので行きたくない」と話した。皆さんが事務局であればどうするか。

[グループディスカッション]

**参加者：**

先ほどの意見にあやかり、役割を与えることによって意見を出すようになるのではないか。

**参加者：**

いろいろな年代の方がいて地域が成り立っており、声が小さい・大きいに限らず、みんなの意見を聞き合えるよう、若い方への配慮が必要ということが挙げた。

**地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：**

合理的配慮について④。皆さんは内部障がい者。電車に乗ったときに内部障がいがあるのに優先席に座っていた。ほかの席は全部埋まっており、シルバーシートは全席障がいがある方で埋まっていた。そこに妊婦さんが乗車したという設定である。このときあなたはどうか。

[グループディスカッション]

**参加者：**

内部障がいは外からわからないため、「内部障がいです」というステッカーなどで表明してはどうか。妊婦さんに譲りたい気もするが、誰しも御身第一なので迷うところである。

**佐々木障がい福祉係長**

内部障がいの人は譲る態度は見せると思う。内部障がいがあってもほかの人に譲り、自分にはちょっと損をするという気持ちがあると思うが、健常者も席を譲らなくてはという話になる。

**陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：**

皆さんはどのような意識で判断したのか。自分が当事者として考えたのかを振り返ってほしい。そして今後、我々が何をやればいいのか教えていただきたい。

[グループディスカッション]

**参加者：**

グループワークを行ったことで自分のこととして考えられた。私たちが地域ケア会議やサロンや各施設で行うことで、自分のこととして考えられるようになるのではという気がした。

**参加者：**

自分のこととして捉えて考えていけばいいのではないかという意見にまとまった。

**参加者：**

私たちのグループは、参加者から箱根山ということが出たので、やはり話し合いをすることで、みんなの意見が変わった。

**参加者：**

私たちの班では、みんなの意見を聞き、その人の立場に立ち、決めつけず意見を大事にする。こういう場をつくり、話し合っていくというところでまとまった。

**参加者：**

障がい者と健常者が分け隔てのない場所や、話し合いの場をつくったほうがいいと思う。

**参加者：**

相手の立場に立って考えるというのがベストだが、なかなかそうならない場合が多いのではないか。きょうみたいな勉強会がもっとあればいいと思う。

**地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：**

話しにくいと思うが、事業所としてはどうか。

**参加者：**

事業所とすれば、私は本音で仕事をしたい。でも、それでは仕事ができないが、そうならないように頑張りたい。

**参加者：**

名古屋でも障害者差別解消法の要綱をつくり勉強したが、非常に難しい。

**陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：**

きょうは、自分にはないいろいろな意見も出た。ご自身が判断をする時の意識はどのような意識だったか。他人ごと意識で、自分が当事者として考えることができたか。そういわれてみれば他人ごと意識で判断していたこともあったかと思う。他の方の意見を聞いて皆さんの考えは変わった方もいらっしゃると思う。ソーシャル・キャピタル、絆（きずな：つながり、むすびつきの意）とか、絆（ほだし：手かせ、足かせ、束縛、迷惑の意）とか、関係性など、それを広めるにはどうしたらいいのか今後も考え続けていく必要があると思う。皆さまにも具体的に広めるための議論をお持ち帰りいただき共有していただきたい。

**参加者**

グループワークのように皆で話し合うことで、自分のこととして考えられたので、地域ケア会議やサロン、各施設で実施すると、一層自分のこととして考えられるようになると思う。

**参加者**

みんなの意見を聞いて、その人の立場に立って、決めつけないという、みんなの意見を大事にしていくとまとまった。

## 参加者

皆で話し合うこと「はまってけらいん かだつてけらいん」が他人ごと意識を変えるのに大切と実感した。

## 参加者

相手の立場に立って考えることが一番ベストだが、なかなか難しいのが現実と思う。

## 陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：

しっかり話し合う場があれば、自分事意識というのは広がっていく。話し合いで気づきをもたらえる場が必要であるなど大切な意見であった。どうしても決めつけてしまうところがあるので、考え続ける場が必要だとか、相手の立場に立てる話し合いの場を何とか作れないか、貴重なご意見であった。人は経験に学ぶ、経験していないことは他人ごとだということを実感できたのではないか。

## 3 その他連絡・アナウンス

### 大船渡保健所

3月24日（木）午後2時からシーパル大船渡にて、アルコール問題の相談対応の研修会を行う。参加希望の方はチラシ裏面の申込用紙をファクスで大船渡保健所まで送ってほしい。

### 復興支援連絡会

「おはようさん」というチラシを毎月発行しているが、今回、連絡会のホームページが完成した。興味のある方はぜひ見ていただきたい。

### ◇次回：平成28年3月18日（金）

メインテーマ：データから見た陸前高田の現状と求められている取組みの実際  
～子どもたちに学ぶ陸前高田の未来～

会場：市役所第4号棟第4会議室